

# もじゃね会通信

2011年3月7日  
副校長 草刈



今年の夏、当校は若い先生が急逝するという悲しい出来事に遭遇しました。この悲しみから1回生30名と教職員全員が手を携えて前を向こうと努力し、やっと立ち上がれるという実感がわくこの頃です。深い雪に覆われた長い冬がようやく終わり、春の暖かな日差しが感じられる気候も私達の悲しみを解かしてくれたのではないかと感じています。

もじゃね会も、7月以降は開く気持ちになれず過ごしてきましたが、ふと気がつくとも次年度の入学生の選抜も終わり、2回生の入学式の準備をする時期になり、後輩を迎える1回生30名は教員や講師の先生達から、どんどん学習したことを吸収して日々たくましく成長していました。

カリキュラムは基礎科目を終了し、専門基礎科目や看護の専門科目を終了するところです。

3月上旬は日本海病院での基礎看護実習で、患者さんの看護ケアを実践しました。入学当初は身にそぐわなかった白衣ですが、この実習ではいくらか似合ってきたように感じました。患者さんの前に立ちますと、緊張で頭が真っ白になり、自分の足で立っているのがやっとという経験をしながら、なんとか自分の未熟な技術でも療養生活を送る患者さんの役に立ちたいとの一心で頑張る姿は、真直ぐで、希望に満ちて清らかです。

こうした経験を通し、学生達は看護の職業人へと成長してくれるのだなあと期待を抱きながら、御指導いただく病院の指導者やスタッフ、学生を暖かく見守ってくださる患者さんに感謝をするしだいです。

これまで学習した成果として、排泄援助の授業で「導尿」の技術について、教員が学生との応答を掲示したボードの御紹介と小児看護概論で学生が創作したおもちゃと老年看護概論で学生が書いた「私の老年観」の文章を一部、御紹介したいと思います。





### 「私の老年観」

老年観というのは、看護の学習をした学生が現在持っている高齢者に対する見方・考え方・生き方などを文章で表現したものです。

### 老年看護学概論

- 『年をとることは生きること全体が生きがいになること』
- 『他者からサポートされることを潔しとする方達』
- 『人生の経験を通して老年期を生きる術を得た人達』
- 『人生の規範から解き放たれた年代だと思う』
- 『その人その人、それぞれの生涯の果実を実らせる人生の時期』
- 『心が温かくやわらかくなる精神の成熟期』
- 『お年寄りをみていると人間にとって大切なものは、ほんの少しであると思えてくる』
- 『年を重ねることは生を全うすること』
- 『お年寄りの人生経験は地域や国の大きな財産である』

